

ウィズ通信

女性とアート。マイヒーローを探して

ウィズ通信
誌上ギャラリー

※ ウィズ通信次号にも、マイ女性ヒーロー展 展覧作品を掲載します。
誌上ギャラリーをお楽しみに！



平成28年度ウィズギャラリー マイヒーロー展 展覧作品 作者の一言 (Iyrapaintman)
絵を描くうえで欠かせない人物となった60年代を代表する女性ロックンガールのジャニス・ジョプリン。17歳のときにジャニスが歌う映像を見たことがきっかけで、彼女のことを知っていくうちに、彼女が生きていた時代に憧れを持つようになりました。色彩豊かで儂い時代にインスピレーションを掻き立てられ、遠く憧れてやまない時代と、自分が生きている今が繋がるような気持ちで絵を描いています。

ウィズせつつでは、3年目となるウィズギャラリー マイ女性ヒーロー展を今年も開催します。

テーマは“女性が憧れる女性”。歴史上の人物や、物語の登場人物、そして身近な人々をイラスト、絵画、コラージュや、その人をイメージする詩など様々な手法で表現した作品が展覧されてきました。作品を発表する場がない方や、初めてアート表現に挑戦したい方など、誰もがアーティストとして自由な表現を楽しみ、その思いを観て楽しむ場となっています。出展者から、英雄的な男性ヒーローはイメージしやすく、モデルとなる人物はたくさんいるけれど、女性のヒーローはイメージしにくいという意見がありました。一般的なヒロインイメージとは、女性＝美しさであることが前提なのかもしれません。女傑といわれる歴史上の人物はたくさんいます。しかし、当時は偉業を成し遂げ、その功績を讃えられても、いつの間にか忘れ去られ、歴史の片隅にうもれてしまった女性たちが、数多くいたことでしょう。ヒーローとして求められるイメージは時代によって変わります。男勝りのイメージではなく、一人の人間として、その人間性の輝きが人々の心を惹きつける女性を探してみませんか。そして、ウィズギャラリーの出展者が描く、女性たちの力強さや輝きを作者なりの感性で表現した作品をご覧ください。

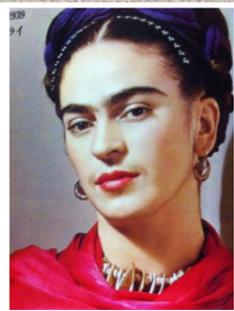
マイヒーローを探して

アーティストというと、一般的には芸能界などでエンターティメントな活動をしている人物をおもひ浮かべます。自らの人生を切り開き、アーティストックに自己表現をする先駆者として、社会に影響を与えた女性たちの名言を紹介します。



20歳の顔は自然からの授かりもの。
30歳の顔は自分の生き様。
だけど50歳の顔には、あなたの価値がにじみ出る。
ココ・シャネル
ファッションデザイナー
(1883~1971)

人生は真実素晴らしいとつくづく思い、体が震えるほど、芸術の世界は尽きることなく興味があり、私にはこの世界しか希望のわく、生きがいのある場所は他にないのだ。そして、そのためにはいかなる苦勞をしても悔いはない。私はそのようにこれまで生きてき、これからもそう生きてゆく。**草間彌生 画家 (1929~)**



私はほとんどの時間を一人で過ごす。自分のことは自分がいちばん知っているから、自分を描くのです。
フリーダ・カーロ 画家
(1907~1954)

なんで変えなきゃいけないの？
みんなそれぞれのスタイルがあって、それを見つけたらずっと持ち続けるべきよ。
オードリー・ヘップバーン
女優 (1929~1993)



本当の基準は「自分が美しいと思った全ては美しい」ということ。根底にあるのは愛です。世界中の人が何とも思わなくても、自分は愛している。それが非常に大事であり、その基準を活かして欲しいと思います。
オノ・ヨーコ (1933~)
アーティスト、平和活動家

オノ・ヨーコ 女性の価値観で世界を変える

「世界はもうメチャクチャ。だれにとっても物事が難しくなった。まるで戦場で生活しているようだ…」とオノ・ヨーコは語る。

ヘイトスピーチは横行する、嘘をついても認めない、報道の自由は奪う、トップ争いに精を出す、弱者には自己責任だと決めつける、従わないものには権力と暴力で支配する。不寛容がまん延している。

オノ・ヨーコ85歳。こんな世の中を変えなくては10月にCD「Warzone 交戦地帯」を発表する。過去のCDから選曲した12曲に「イマジン」を加えた計13曲を、新しい表現で歌う。男性社会を批判し、女性の価値観が必要だと説く。

子供時代に第二次世界大戦と東京大空襲、広島・長崎の原爆を経験して、そこから二つのこと強く感じたという。一つは「私たちは困難な時期を一緒に生き延びられる」ということ、もう一つは「自分の戦争体験をだれにも、とくに子供たちには、体験してほしい」ということだ。

認め合い、助け合い、協力し合う社会を築くことこそ必要なのだ。

これが、「ひとりでみる夢は、ただの夢。一緒にみる夢は現実となります」「愛と平和を！」という彼女のアート・メッセージの原点となっている。夫を殺された彼女にすれば、暴力ない世界への願いは一層強くなったころだろう。自分の社会に対するアートの姿勢は初期のベトナム反戦イベントから一貫して変わっていないという。

昨年1月、トランプ大統領就任に反対して、全米各地で行われた「女たちの行進」にニューヨークで参加した彼女は、たくさんの若い女性参加者に囲まれて、「たしかに1971年よりよくなったと感じる」と語った。1971年は彼女が「社会の女性化」というエッセイを書いた年だ。女性は変わったが、男性はまだ変わっていない。

「私たち芸術家は、よい芸術でよりよい世界をつくることができる」とオノ・ヨーコ。自身の展覧会の鉢植えの木に世界中の人たちが願い事を書いた短冊をつるす。ひとりでみる夢と一緒にみる夢に変えようと。歌で、アートで、オノ・ヨーコはいまも前進する。

三木草子さん (シニア女性映画祭プログラマー)

(平成29年度ウイズせつつセミナー「この女性アーティストがすごい！オノヨーコから草間彌生まで」講師)

ウィズギャラリーマイ (女性) ヒーロー展 開催!

勇気や気高さのある歴史上の人物、物語や小説の中で生き方に共感した登場人物、今の時代に活躍している憧れの人や、身近にいる素敵な人など、私のイチオシの人物を描いた作品展です。自分なりのイメージで表現した応募作品を作者のコメントとともに展示します。ウィズギャラリーで、素敵な作品に出会えるかも。ぜひ、ご来場ください。

展示期間: 11月4日(日)~8日(木)

展示場所: 男女共同参画センター交流室/コミュニティラザ1階エントランス



情報ルーム 本の紹介

市民の皆さんに本の貸し出しをしています。



フリーダ・カーロ
堀尾真紀子著
中公文庫刊

交通事故により身体障がいとなったメキシコの画家フリーダ・カーロの壮絶な生涯と、鮮やかな色彩の作品に圧倒される。



ココ・シャネル
凛として生きる言葉
女を磨く言葉高野てるみ著
マガジンハウス刊

ココ・シャネルの心に響く数々の名言を紹介。自分軸を持つ力に励ませる。



無限の網 - 草間彌生自伝
草間彌生著
新潮文庫刊

社会の既成概念に挑み、自分が生きたいように生きる創作活動に感銘。



ただの私
オノ・ヨーコ/飯村隆彦
講談社文庫刊
女性視点の感性、ユーモア、清らかな眼差し。
オノ・ヨーコファンになること間違いなしの一冊。

トピック

性被害にNO! #Me Too mvment

2017年10月、アメリカの俳優アリッサ・ミラノさんがツイッターで「もしあなたが”セクハラ”や”性的暴力”の被害者であれば、ぜひ”#Me Too”というハッシュタグと共に、このツイートに返信をください。この活動により、多くの女性たちが”セクハラ”や”性的暴力”の被害に遭っている事実を世の人々に知らせることが出来るでしょう。」#MeTooと発信したのが始まり。

女性や男性、性別を超えて団結し、セクハラや性的暴力に立ち向かい被害を告発する「MeToo」運動。そして今、俳優などハリウッドの関係者が中心となり、弱い立場にある女性の弁護士費用を支援し、性被害の撲滅を訴える「Time's Up」運動が世界中に広がっています。

110年ぶり、性犯罪の厳罰化!

そして、日本では、2017年7月に、明治時代の制定以来、110年ぶりに強姦罪が「強制性交等罪」に名称改め、性犯罪を厳罰化する刑法が改正されました。

被害者は女性だけではなく、全ての性が対象となり、懲役刑の下限を3年から5年に引き上げ、被害者を死傷させた場合には、5年から6年となる改正です。被害者の精神的負担を減らすため、被害者の告訴がなくても起訴できるように改め、親告罪の規定を削除しています。

この法改正を後押ししたのは、全ての性にとって生きやすい社会づくりに取り組む女性の4団体が性犯罪の厳罰化を求め、連携をしました。「刑法の性犯罪規定を実態に合わせて改正する」「性行為には同意が必要だ」という文化を作る」という2つの目標を掲げ、軽やかなアート活動を通して人々の共感を呼び、国に対しても地道なロビー活動を行ってきた思いが結実しました。

